第１章　津和野町の文化財の総合的な把握

第１節　調査の手法と事業実施の流れ

１　調査の手法と実施

津和野町では、これまで史跡津和野城跡および津和野城下町遺跡、名勝の旧堀氏庭園、さらには鷺舞神事を中心とした民俗文化財、天然記念物の樟や神社の社叢などを中心として、行政主導で文化財保護行政を行ってきた。

こうした取組の成果と課題を踏まえながら、本事業では住民や専門家等の協力と参加を得ながら、次のような７つの手法によって、文化財の総合的な調査を行った。

【手法１】町担当者による基礎情報のデータ化…全類型

【手法２】文化財（文化的な“資源・宝”）に関するアンケート調査…全類型

【手法３】地元調査員による所在確認と調査カード作成…全類型

【手法４】全公民館でのワークショップと補足聞き取り…全類型

【手法５】町担当者による確認調査・実測調査…史跡、記念物、埋蔵、文化的景観

【手法６】専門家による確認調査・実測調査…建造物、伝建地区、記念物、民俗関係

【手法７】専門家・業者による悉皆調査・測量調査…建築（社寺悉皆、登録有形など）

このうち、地元調査員による調査では、対象を町内全域に広げ、旧村単位に調査員を配置し住民自らが調査に関わることによって文化財の理解を深めるとともに、地域の特性を見出すことに努めた。調査員には事前に文化財についての説明を行うとともに、これまでに取り組みの少なかった文化財類型にも配慮し、全分類において広くテーマが設定できるよう努めた。第１次調査に引き続き、群や区域のテーマに基づいた第２次調査を実施した。

全住民を対象にしたアンケート調査では、自宅における宝、地域における宝、津和野全域における宝について住民の意識を調査し、地域の特性の参考とすることとした。また、社寺についても文化財の所有調査や盗難被害の実態等についても調査を行った。

これらの調査結果から、関連文化財群においては中世山城や街道、鉱山やたたら場などが町内全域に広がっておりそれぞれが相互にかかわり合っていること、保存活用区域については城や信仰の対象となった山、樹木など、それぞれ核となる文化財を中心として生活が営まれ、文化財が今もなお地域の宝として大切に継承されていることが明らかになった。

特に、これまで津和野町では取り組みのなかった建造物調査（重要文化財や社寺悉皆調査、伝統的建造物群の絞り込み）、さらには高津川を中心とした文化的景観について、おおよその方向性を見出すことができたと考えている。

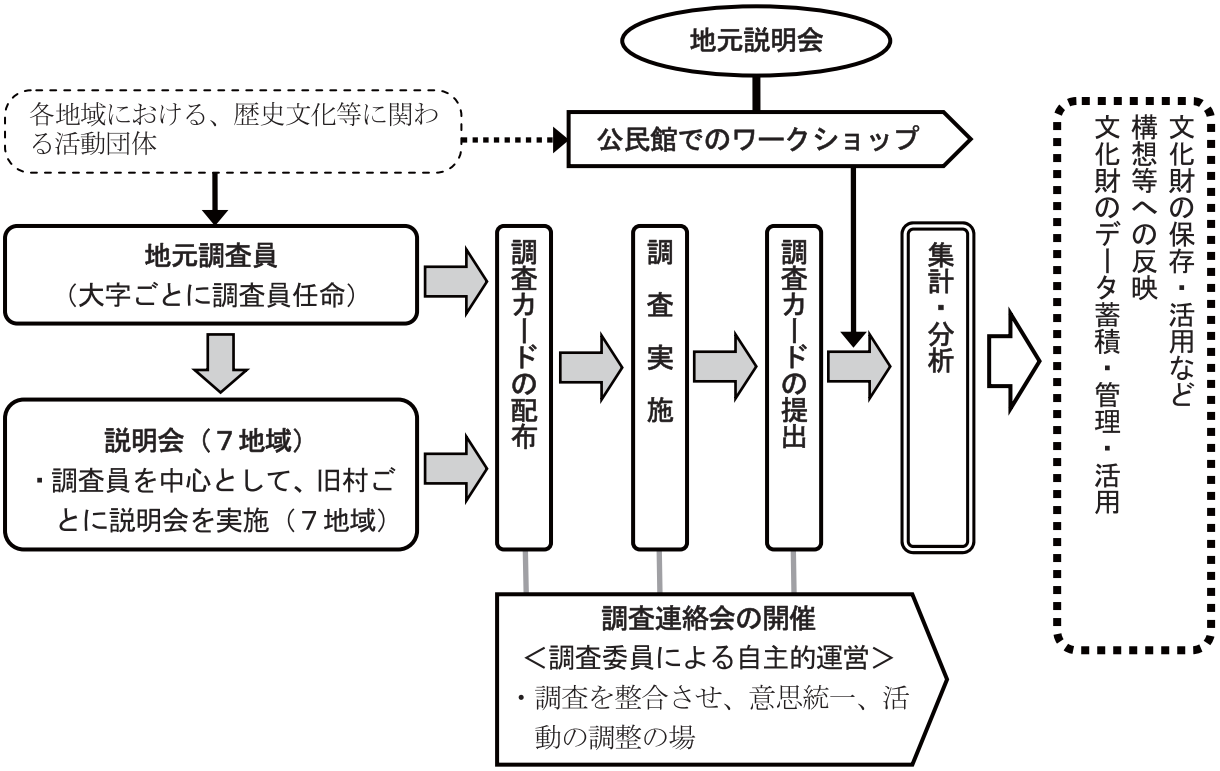

図 1-1-1　住民参加の調査の流



ワークショップ（左鐙公民館）



ワークショップ（青原公民館）

２　業務の実績の概要

（１）　平成20年度の業務の実績

①　歴史文化基本構想策定委員会と運営委員会について

モデル事業における委員会については、基本方針や関連文化財群、保存活用区域の設定等について検討する学識経験者らによる「歴史文化基本構想策定委員会」と、文化財の実態調査等に協力し、かつ町民を中心として基本構想を検討する「歴史文化基本構想運営委員会」の二本立てとした。これは、事業の着手にあたり担当係レベルにおいて、学識経験者や地域の特定の代表者だけが関わる計画策定が地域住民の意識とかけ離れた結果になることを危惧し、住民が本事業の目的である文化財の総合的な把握のための調査に積極的にかかわり、自由な発想で計画策定にもかかわるために特に大切であると考えたからである。この委員会のありかたについては、教育委員会内において一本化できないかとの意見もあったが、文化財調査に重点を置くとともに、策定委員に文化財だけの学識経験者だけでなく、文学や美術などの文化面における学識経験者も参加することとして了承を得た。



策定委員会



運営委員会

○歴史文化基本構想策定委員会及び運営委員会を、それぞれ２回開催した。

○大字ごとに配置した調査員による文化財調査員連絡会を２回開催した（調査に関わる周知・指導及び調査員相互の交流と調査に関する意見交換・調整など）。

②　各種文化財調査等について

各種文化財調査等は以下のように実施した。

○民俗調査指導：日時　平成21年1月30日（金）、指導者　湯川洋司、坪郷英彦

○建造物調査指導：日時　平成21年2月9日（月）、指導者　矢ヶ崎善太郎

○建造物調査：日時　平成21年3月3日（火）～4日（水）、指導者　矢ヶ崎善太郎、調査補助員２名

○史跡調査：日時　平成21年2月25日（水）、指導者　北垣聰一郎　調査補助員２名

○庭園調査：日時　平成21年2月15日（日）～16日（月）、指導者　仲隆裕

○古文書調査指導：日時　平成21年3月23日（月）～24日（月）、指導者　小林准士　調査補助員２名

○埋蔵文化財調査指導：日時　平成21年3月26日（木）、指導者　椿真治、守岡正司

③　住民説明会について

平成20年度の住民説明会は、７つの地区（日原、津和野、木部、畑迫、小川、喜時雨、河村）で、それぞれ１回行った。

④　広報活動について

○　広報「つわの」２月号でモデル事業について採択された旨、事業の内容、調査事業に対する協力依頼を行った。

○　１月～３月において町内のケーブルテレビを利用してモデル事業の内容、調査事業に対する協力依頼を行った。

○　地域別調査における調査員が、調査を行う上で所有者等に事業の内容を説明するための趣旨説明や文化財の類型について記載したちらしを作成した。

（２）　平成21年度の業務の実績

①　歴史文化基本構想策定委員会と運営委員会について

モデル事業における歴史文化基本構想の策定にあたっては、平成20年度に引き続き基本方針や関連文化財群、保存活用区域の設定等について検討する学識経験者らによる「歴史文化基本構想策定委員会」と、文化財の総合的調査等に協力するとともに、歴史文化基本構想の基礎的な検討を行う「歴史文化基本構想運営委員会」の二本立てとし実施した。

○歴史文化基本構想策定委員会及び運営委員会を、それぞれ２回（第３回、第４回）開催した。このうち第３回は、両委員会の合同委員会とした。

○文化財調査員連絡会を６回開催した。

②　各種文化財調査等について

各種文化財調査等は以下のように実施した。

ア　建造物調査

○町内社寺建築調査：期間　平成21年７月９日（木）～平成22年３月25日（木）、委託先　奈良文化財研究所

○伝統的建造物群保存対象地区の選定：日時　平成21年９月14日（月）、指導者　矢ヶ崎善太郎（京都工芸繊維大学）

○永明寺測量調査：日時　平成22年３月３日（火）～４日（水）、指導者　矢ヶ崎善太郎（京都工芸繊維大学）ほか補助員３名

イ　民俗現地調査および調査指導

○町内現地確認調査：日時　平成21年５月29日（金）、指導者　湯川洋司（山口大学教授）、坪郷英彦（山口大学教授）

○民俗調査実習の受け入れ：日時　平成21年９月８日（火）～11日（金）、指導者　湯川洋司（山口大学教授）、坪郷英彦（山口大学教授）ほか８名

○仏像等調査指導：日時　平成21年８月７日、指導者　椋木賢治（島根県芸術文化センター主任学芸委員）

ウ　古文書調査

○近代行政文書確認調査：日時　平成21年12月７日（月）、指導者　小林准士（島根大学准教授）

○堀氏文書調査：日時　平成21年７月９日（木）～10日（金）、平成21年10月20日（火）～21日（水）、指導者　仲野義文（石見銀山世界遺産センター）ほか

エ　史跡調査および調査指導

○津和野城下町遺跡調査指導：日時　平成21年５月21日（木）～22日（金）、指導者　水之江和同（文化庁記念物課）

○亀井家墓所調査指導：日時　平成21年７月６日（月）～７日（火）、指導者　白石太一郎

○石造物の石材調査：日時　平成21年８月17日（月）～18日（火）、指導者　奥田尚

○亀井家墓所石造物測量調査：日時　平成22年３月７日（日）～12日（金）、指導者　内田大輔（奈

良大学）その他５名

オ　庭園測量調査

○商家庭園測量調査：日時　平成21年７月１日（水）、実施者　津和野町教育委員会

カ　埋蔵文化財調査

○笹ヶ谷銅山現地調査：日時　平成21年10月20日（火）、指導者　椿真治（島根県教育庁文化財課世界遺産室）、守岡正司（石見銀山世界遺産センター）

○石見瓦調査：日時　平成21年４月22日（水）～23日（木）、平成22年３月１日（月）～２日（火）、指導者　熱田貴保（島根県文化財課）

○津和野城下町遺跡と周辺遺跡の総合的検討：期間　通年、実施者　津和野町教育委員会

③　アンケート調査の実施

○文化財に関する町民アンケート調査：期間　平成21年６月９日（火）～８月31日（月）

○社寺における美術工芸品のアンケート調査：期間　平成22年１月８日（金）～平成22年１月31日（水）

④　ワークショップの開催

住民による津和野町の文化財（地域の文化的な“資源・宝”）の再発見とともに、その特色や相互のつながりなどを検討する。

○日時：平成21(2009)年９月28日(月)

○テーマ：つわのの自然・生業・文化～石見人としての足跡をさぐる～

⑤　研修会の開催

○「津和野の社寺建築について」：日時　平成22年３月20日（土）、講師　島田敏男氏（奈良文化財研究所）

⑥　住民説明会

地域ごとの説明会（小川、日原、畑迫、津和野の４地区で各２回）及び学校研修会（鹿足郡社会科部会研修会：１回）において説明会を実施した。





つわのの自然・生業・文化～石見人としての足跡をさぐる～（ワークショップ）

（３） 平成22年度の業務の実績

①歴史文化基本構想策定委員会と運営委員会について

平成21年度に引き続き、歴史文化基本構想について検討する学識経験者らによる「歴史文化基本構想策定委員会」と、文化財の調査及び歴史文化基本構想や保存活用の基礎的な検討を行う町民を主体とした「歴史文化基本構想運営委員会」の二本立てとし実施した。

○歴史文化基本構想策定委員会については、２回（第５回、第６回）、歴史文化基本構想運営委員会は４回（第５回、第６回、第７回、第８回）開催した。

○文化財調査連絡会は５回開催した。

②各種文化財調査について

ア　建造物調査

○太皷谷稲成神社元宮神社、半峰亭調査　平成22年8月5～7日、指導者　矢ケ崎善太郎（京都工芸繊維大学）ほか調査補助員８名

○登録有形文化財群調査指導　平成22年12月9日、指導者　矢ケ崎善太郎(京都工芸繊維大学)

イ美術工芸品

○仏像調査（永明寺、大定院、興海寺）　平成23年1月28～31日　調査員　松元章徳（奈良大学大学院）ほか２名

ウ　史跡

○藩主亀井家墓所石造物調査　平成22年4月26～30日　指導者　内田大輔（奈良大学職員）ほか調査補助員３名

エ　文化的景観調査

○石見瓦歴史調査　平成22年5月13～14日、8月9～11日、10月19～20日、3月10～11日　調査員　熱田貴保（島根県文化財課）

③シンポジウムの開催

○テーマ　「津和野の「歴史遺産」の魅力とその活用～高津川と城下町、そして」石見人が」培った遺産を引き継ぎ、生かす～」

日時：平成22年11月21日（日）13:30～16:30

場所：津和野町民センター

○記念講演：「文化財総合的把握モデル事業について」

文化庁伝統文化課文化財保護調整室長　森　政之

○基調講演：「津和野の歴史文化の特色と魅力、そして未来」

武蔵野美術大学名誉教授　長谷川　堯

○パネルディスカッション

コーディネーター：松島　弘

パネリスト：北垣聰一郎、山崎一穎、湯川洋司、矢ケ崎善太郎、小林准士

参加者　約90名

④住民説明会とワークショップの開催

○地元説明会

公民館長・分館長主事会議：平成22年6月23日

商工会観光協会事業説明会：平成22年8月24日

山陰ネットワーク会議：平成22年11月22日

○ワークショップ

左鐙地区：平成22年8月3日

畑迫地区：平成22年7月13日、平成22年8月31日
青原地区：平成22年9月21日
津和野橋南地区：平成22年9月22日
津和野橋北地区：平成22年9月27日
日原地区：平成22年10月8日
小川地区：平成22年10月18日
木部地区：平成22年12月3日

⑤学校出前授業

○津和野小学校　郷土学習「津和野城と城下町」について６回にわたり授業を開催。「私たちの残したい津和野マップ」作製。

○津和野高校　　「津和野城と城下町」について２回にわたり講義。

⑥伝統文化活性化協議会の立ち上げ協力

○文化庁委託事業「地域伝統文化活性化事業」（H22～24）の立ち上げによる協力





シンポジウム～津和野の「歴史遺産」の魅力とその活用～

第２節　文化財に関する住民意識

１　調査の概要

（１）　調査の目的

津和野町には、国の重要文化財をはじめ数多くの指定された文化財がある。

また、指定されてはいないが、文化的に貴重な建造物や伝統行事、伝統的な技術・技能、衣食住や産業等に関わる風俗習慣、川や里山等の景観、動植物などが数多く地域に息づいていると考えられる。

こうした地域の文化的な“資源・宝（文化財）”について、地域に暮らす住民から情報提供を得るとともに、その保存・活用についての意見などを把握するため、全世帯を対象にアンケート調査を実施する。

この調査などをもとに、津和野町の文化財を総合的に把握し、保存・活用について検討し、一歩一歩、具体的に取り組んでいくものである。

（２）　調査の方法

①　アンケート調査方式

○　原則、無記名のアンケート調査方式

○　ただし、差し支えのない範囲で「世帯主の氏名」を記述する欄を設定（文化財について、教育委員会から問い合わせをすることが可能なように配慮）

②　調査対象者

○　津和野町の全世帯（１票／世帯）：16歳以上の世帯員

③　アンケート調査票の配布・回収の方法

○　配布：各地区の嘱託を通じて各戸配布

○　回収：郵便

④　調査期間

○　平成21(2009)年６月９日(火)～８月31日(月)

（３）　調査票の配布・回収の状況

調査票の配布・回収の状況は、以下のとおりである。

表1-1-1　アンケート調査票の配布・回収の状況

地　区	配布数（票）…A	回収数（票）…B	回収率(%)…B／A
津和野	1,340	117	8.7
小　川	337	24	7.1
畑　迫	307	34	11.1
木　部	289	26	9.0
日　原	900	113	12.6
須　川	90	10	11.1
左　鐙	124	14	11.3
青　原	357	31	8.7
不　明	－	4	－
合　計	3,744	373	10.0

2　調査結果

（1）　基本的属性

①　性別

回答者の性別は、男性が66.5％と全体のほぼ２／３を占めている。

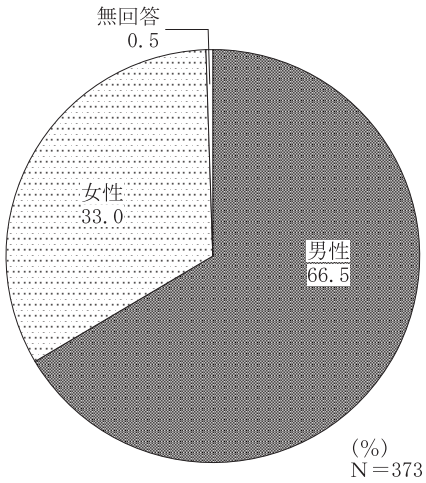

図1-1-2　性別

②　年齢階層

回答者の年齢階層は、「70～79歳」が27.5％で最も多く、次いで「60～69歳」が25.2％となり、これに「80歳以上」（17.2％）を加えると、全体の約７割（69.9％）が60歳以上となっている。

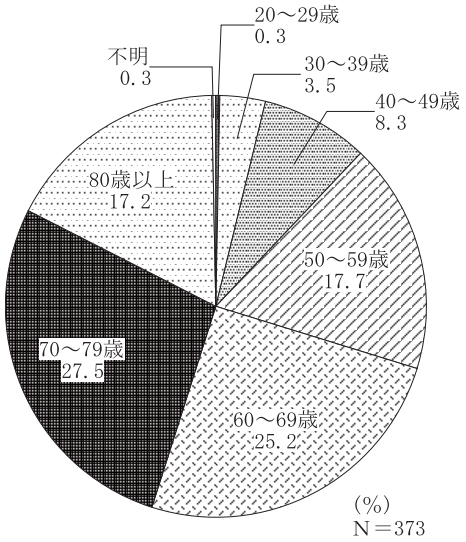

図1-1-3　年齢階層

③　居住地区

回答者の居住地区は、津和野地区が31.3％、日原地区が30.3％で、この両者で全体の６割以上を占める。

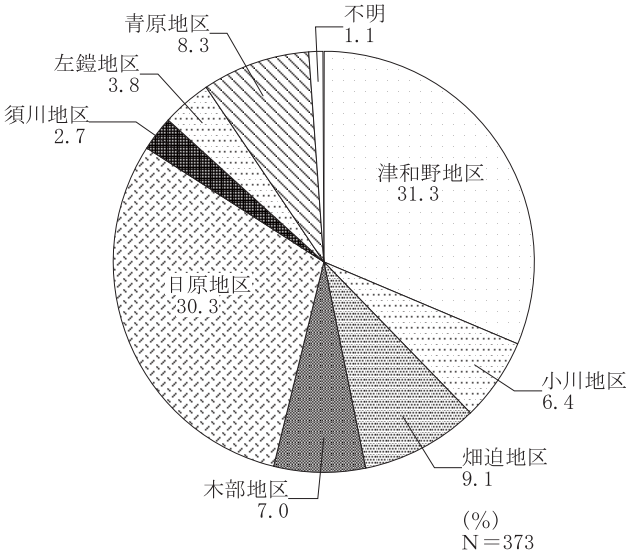

図1-1-4　居住地区

（２）　地域にある文化的な“資源・宝”について

①　自宅にある地域の文化的な資源・宝、技術・技能など

問　あなたのご自宅に、地域の文化的な“資源・宝”と思われるものがありますか、または、そうした技術・技能などをお持ちの方がいらっしゃいますか。
※１位～３位の記入

ア　津和野町全体での概要

自宅にある文化的な資源・宝について、文化財の類型を踏まえながら整理すると、全体（第１位～第３位）での概要は以下のようになる。

○　全体では、108 件（回答数、重複した文化財あり）の文化的な資源・宝があげられている。

○　回答件数の構成比（第１位～第３位の合計）は、「有形文化財（美術工芸品）」が 66.6%（72 件）で最も多く、次いで「有形文化財（建造物）」10.2%（11 件）、「無形民俗文化財」9.3%（10 件）などとなっている。

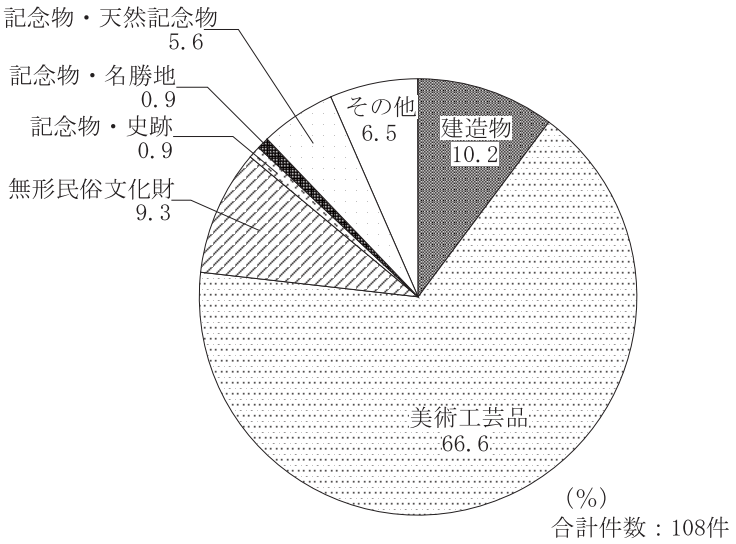

図1-1-5　回答件数の構成比（第１位～第３位の合計）

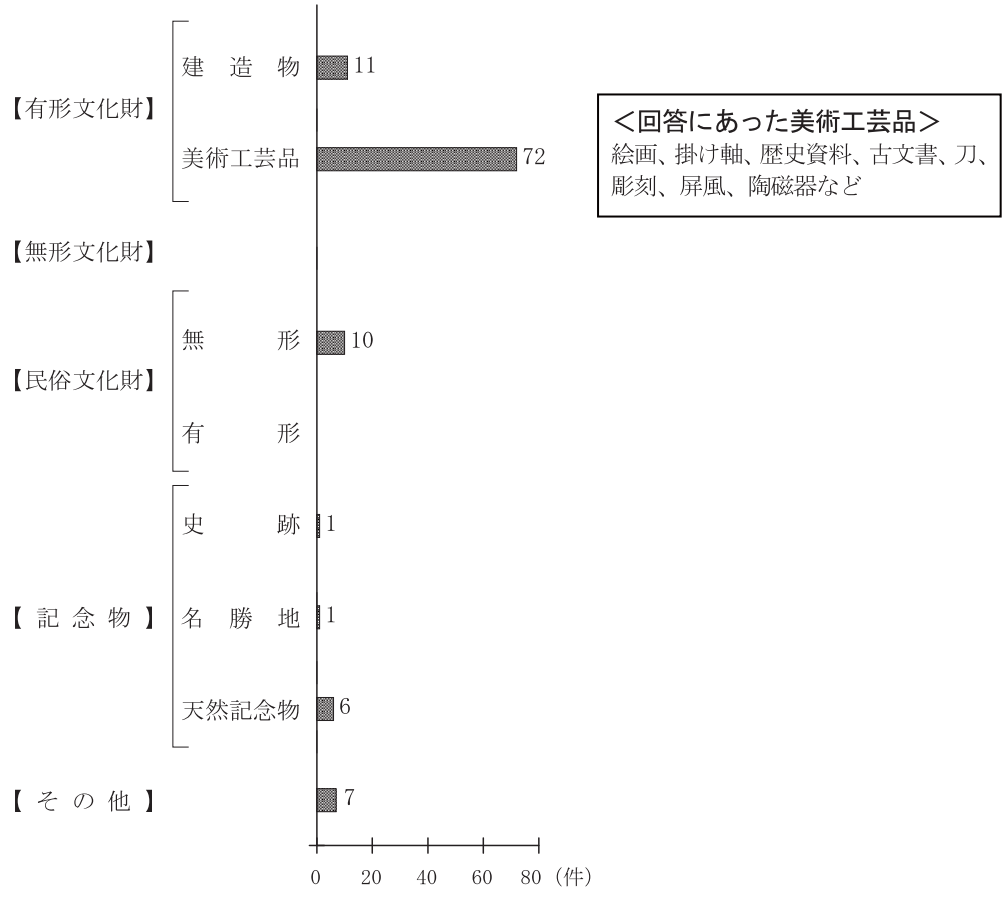

図1-1-6　回答者の自宅にある、地域の文化的な資源・宝、技術・技能など第１位～第３位までの合計件数

イ　地区別の回答件数と内容

○　地区別でみると、日原地区が 39 件で最も多く、次いで津和野地区 32 件となり、この両者で全体の約２／３（65.7%）を占める。また、内容は美術工芸品が中心である。

○　この他、左鐙地区で 11 件、木部地区 10 件など、各地区で地域の文化的な資源・宝があげられている。

表1-1-2　回答者の自宅にある、地域の文化的な資源・宝（第１～３位合計）

区分（地区）	合計	有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物			その他
		建造物	美術工芸品		無形民俗文化財	有形民俗文化財	記念物・史跡	記念物・名勝地	記念物・天然記念物	
津和野町全体	108	11	72	－	10	－	1	1	6	6
津和野地区	32	2	24	－	1	－	1	－	2	2
小川地区	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－
畑迫地区	6	－	6	－	－	－	－	－	－	－
木部地区	10	1	7	－	0	－	－	－	－	2
日原地区	39	5	25	－	3	－	－	-1	4	1
須川地区	3	1	2	－	－	－	－	－	－	－
左鐙地区	11	2	1	－	6	－	－	－	－	1
青原地区	6	－	6	－	－	－	－	－	－	－

＜文化的な資源・宝の主な内容（第１～３位合計：津和野町全体）＞

建　　造　　物：建物、一の谷にある旧住居、天保 13 年建築の主屋、築 100 年あまりの住宅、三好家の長屋など

美術・工芸品：絵画(8)、掛け軸(8)、古文書(6)、刀(2)、彫刻、ルオーの銅版画、木彫りの面、屏風、津和野藩大目付教条、唐人焼、喜多流謡曲本、津田薩摩守定次の鏡など

無形民俗文化財：そば打ち(2)、食文化(2)、炭焼き、農林水産等の技術、養蜂技術など

記　　念　　物：石碑、庭園、樹木(楠)、モリアオガエル、門かぶりの松、キンラン・チゴユリ等山草類など

そ　　の　　他：江戸中期の石垣と言われる棚田、古老の話、写真（笹ヶ谷鉱山・昭和 13 年頃、昭和 49 年～53 年、工事終了時）など

※自宅以外の資源と明らかなものは除外した

②　居住地区にある地域の文化的な資源・宝、技術・技能など

ア　津和野町全体での概要

問　あなたのお住まいの地区（ご自宅以外）において、地域の文化的な“資源・宝”と思われるものや伝統行事、技術・技能、衣食住に関する風俗習慣などを、下記の欄に５つまでご記入下さい。

居住地区にある文化的な資源・宝について、文化財の類型を踏まえながら整理すると、全体での概要は以下のようになる。

○　全体では、461 件（回答数、重複した文化財あり）の文化的な資源・宝があげられている。

○　「無形民俗文化財」が 26.2%（121 件）、「有形文化財（建造物）」が 18.9%（87 件）で、上位１・２番となっている。

○　次いで、各「記念物」も相対的に多くあげられている。また、記念物全体（史跡、名勝、天然記念物）では 34.9%（161 件）に達する。

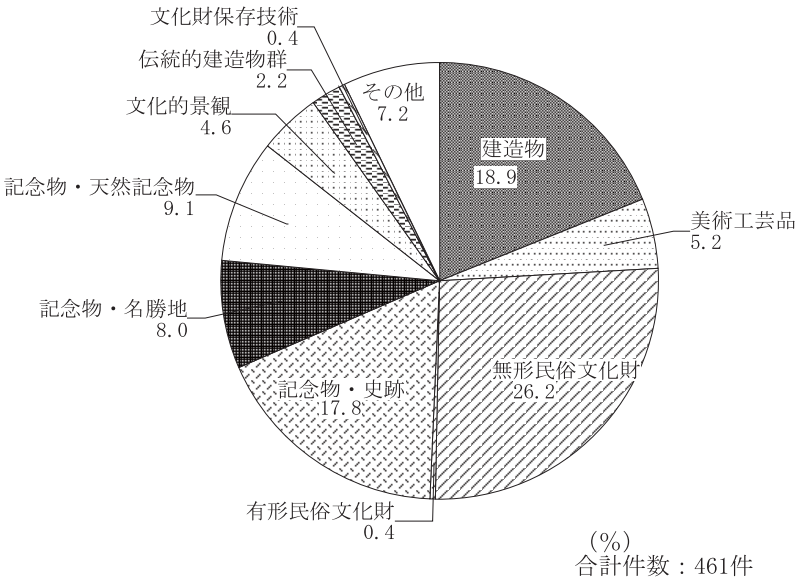

図1-1-7　回答件数の構成比

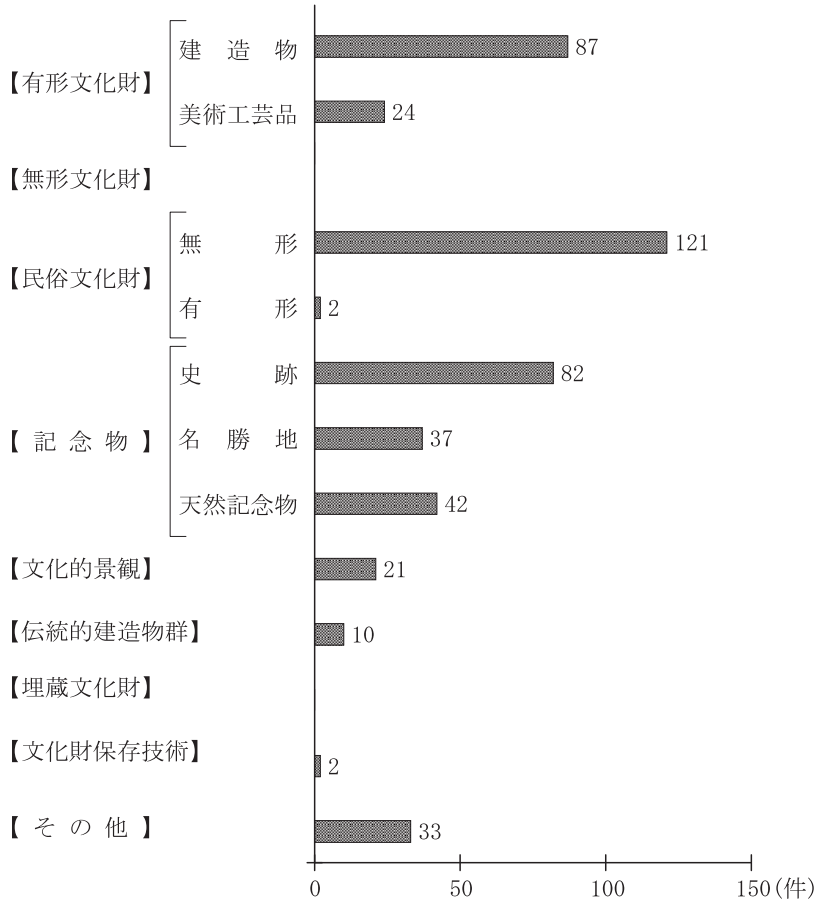

図1-1-8　居住地区にある、地域の文化的な資源・宝、技術・技能など（複数回答）

イ　地区別の内容

居住地区にある文化的な資源・宝について、あげられた件数を地区別でみると、津和野地区が188件、日原地区が96件で、この両者で全体（461件）の６割を超える（61.6%）。また、木部、青原も50件近くあげられている。

文化財の類型を踏まえながら内容をみると、「民俗文化財（無形民俗文化財）」が121件、「有形文化財（建造物）」が87件、「記念物（史跡）」が82件と上位を占める。

また、あげられている文化的な資源・宝の主な内容は下記のようになる。

表1-1-3　回答者の居住地区における、地域の文化的な資源・宝など（複数回答）

区分（地区）	合計	有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物			文化的景観	伝統的建造物群	埋蔵文化財	文化財保存技術	その他
		建造物	美術・工芸品		無形民俗文化財	有形民俗文化財	記念・史跡	記念物・名勝地	記念物・天然記念物					
津和野町全体	461	87	24	0	121	2	82	37	42	21	10	0	2	33
津和野地区	188	45	5	－	46	1	37	8	18	8	9	－	－	11
小川地区	24	4	1	－	6	－	1	4	4	2	－	－	－	2
畑迫地区	30	6	4	－	8	－	1	3	2	4	－	－	－	2
木部地区	48	10	5	－	5	－	17	2	2	－	－	－	－	7
日原地区	96	15	6	－	23	－	16	10	14	3	－	－	1	8
須川地区	4	－	1	－	1	－	－	1	－	－	－	－	－	1
左鐙地区	23	5	－	－	8	－	－	5	1	4	－	－	－	－
青原地区	48	2	2	－	24	1	10	4	1	1	－	－	1	2

＜文化的な資源・宝の主な内容（津和野町全体）＞

建　　造　　物：鷲原八幡宮、三渡八幡宮、鳴滝神社、財間酒造の酒蔵、市川家住宅、馬場先櫓、杜塾美術館、麹屋さん、旧森田家など
美術・工芸品：黒杭五輪堂、門林神社前の灯籠、汗かき地蔵、唐木地地蔵、高平山観音など
無形民俗文化財：鷺舞、流鏑馬神事、宅神祭、奴道中、神楽、芽輪神事、ヨイヤナー盆踊りなど
記念物・史跡：鷲原公園、鷲原公園の流鏑馬馬場、城跡、徳城往還、旧日原共存病院跡の石垣、丸山公園、お旅所など
記念物・名勝地：堀庭園、古川公園(旧川園)、丸山、鳴滝周辺、雄滝雌滝、高津川など
記念物・天然記念物：津和野神社の桜、カブトエビ、中山八幡宮の大杉、大元神社跡の樟など
文化的景観：四季折々の景色、水路、地倉大権社を中心とする地倉沼周辺の景観など
伝統的建造物群：殿町通りの景観（掘割）
そ　　の　　他：天文台、郷土のくどき屋号調べ、地区名称など

③　津和野町にある地域の文化的な資源・宝、技術・技能など

問　あなたは、津和野町全体での地域の文化的な“資源・宝”として、特にあげられたいものは何ですか。上位５つまでを記してください。ご自宅や住んでいる地区であげられたものでも、よろしいです。

ア　津和野町全体での概要

津和野町にある文化的な資源・宝のうち、特にあげたいものについて、文化財の類型を踏まえながら整理すると、全体での概要は以下のようになる。

○　全体では、738 件（回答数、重複した文化財あり）の文化的な資源・宝があげられている。

○　回答件数の構成比としては、「記念物（史跡）」が 26.0%(192 件)が最も多く、次いで「民俗文化財（無形）」18.2%(134 件)、「有形文化財（建造物）」16.9%(125 件)などとなっている。

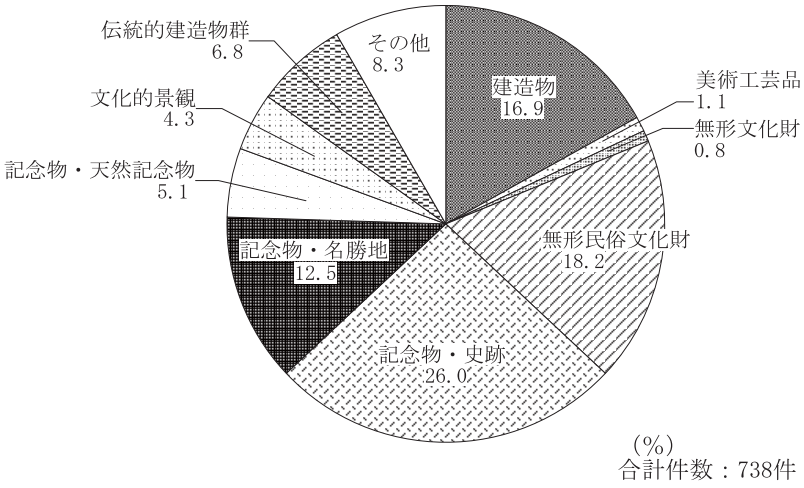

図1-1-9　回答件数の構成比

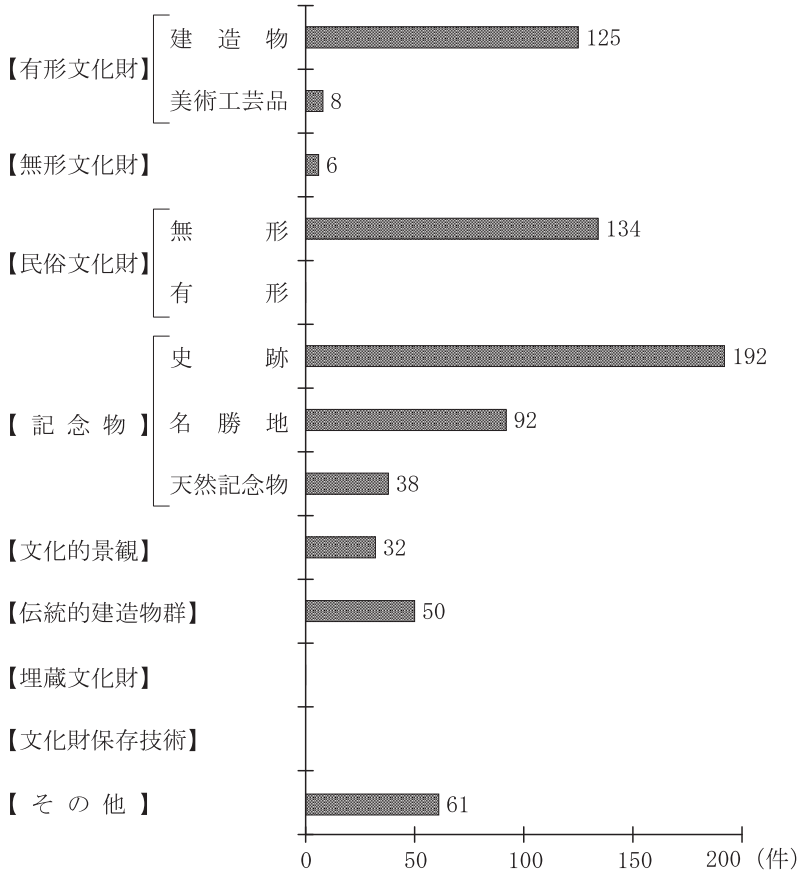

図1-1-10　津和野町にある、地域の文化的な資源・宝
第１位～第５位までの合計件数

イ　地区別の回答件数と内容

○　地区別でみると、津和野地区が 325 件で最も多く、全体の 44.0%を占め、内容は記念物(史跡)、建造物が上位を占める。なお、記念物（史跡）の中心は津和野城跡である。

○　次いで、日原地区で 160 件、畑迫地区で 69 件、青原地区で 62 件などとなっている。

表1-1-4　津和野町全体での文化的な資源・宝（第１～５位合計）

区分（地区）	合計	有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物			文化的景観	伝統的建造物群	埋蔵文化財	文化財保存技術	その他
		建造物	美術・工芸品		無形民俗文化財	有形民俗文化財	記念物・史跡	記念物・名勝地	記念物・天然記念物					
津和野町全体	738	125	8	6	134	0	192	92	38	32	50	0	0	61
津和野地区	325	70	6	1	55	－	94	23	12	20	26	－	－	18
小川地区	39	5	1	－	9	－	14	4	2	－	4	－	－	－
畑迫地区	69	13	1	1	12	－	24	10	－	2	3	－	－	3
木部地区	52	9	－	－	9	－	16	3	2	1	3	－	－	9
日原地区	160	17	－	1	29	－	25	40	16	5	11	－	－	16
須川地区	7	1	－	－	－	－	－	1	3	－	1	－	－	1
左鐙地区	19	3	－	1	6	－	1	2	1	2	－	－	－	3
青原地区	62	7	－	1	15	－	15	8	2	2	1	－	－	11

＜文化的な資源・宝の主な内容（第１～５位合計：津和野町全体）＞

建　　造　　物：太皷谷稲成神社(35)、永明寺(26)、鷲原八幡宮(18)、弥栄神社(6)、藩校養老館(3)、乙女峠マリア堂(2)、家老門(2)、津和野庁舎など

美術・工芸品：免鑑(1860年当時の免許)、愈宋札の画帳、観音様、天球儀・地球儀など

無形文化財：和紙づくり(5)、炭焼きなど

無形民俗文化財：鷺舞(42)、流鏑馬神事(28)、神楽(13)、奴道中(10)、乙女峠まつり(4)など

記念物・史跡：津和野城跡(81)、森鷗外旧居・記念館(27)、乙女峠(18)、西周旧居(10)、鷲原公園(9)、流鏑馬馬場(6)、下瀬山城跡(6)、笹ヶ谷銅山坑道(4)、徳城往還(3)など

記念物・名勝地：高津川(27)、堀庭園(23)、安蔵寺山(13)、青野山(11)、高峯の白糸の滝など

記念物・天然記念物：鯉(5)、ホタル(5)、堤田の樟(5)、安蔵寺山のブナ林(3)、鷲原の一本杉(2)、永太院の桜、三渡神社の社叢とイチイガシ、風穴洞、地倉沼など

文化的景観：水路(11)、棚田(6)、里山の景観・環境(3)、旧津和野町内に発生する雲海(2)、堤田農村景観、津和野の四季など

伝統的建造物群：殿町通りの街並み・景観(49)、赤瓦と白壁など

そ　　の　　他：天文台(15)、安野美術館(6)、ＳＬ山口号(3)、星空(3)、森鷗外(3)など

（３） 地域にある文化的な“資源・宝”と、暮らしやまちづくりについて

① 地域の文化的な資源・宝がもたらす効果や役割

問　あなたは、地域の文化的な“資源・宝”がもたらす効果や役割を、どのようにお考えですか。
（○印はあてはまるものすべて）

地域の文化的な資源・宝がもたらす効果や役割については、「誇り、愛着」が198件（総件数1,167に対する割合…右頁上の図：17.0％）と最も多く、次いで、「地域イメージや魅力の向上」が162件（同：13.9％）となっている。

また、「親戚・知人等のもてなし（楽しみ、案内）」が148件（同：12.7％）、「産業の維持・活性化」が137件（同：11.7％）と上位（３位・４位）を占めている。

この他、「散策や健康づくり」、「学校教育や生涯学習の充実」、「暮らしにおける精神的な充実」が、100件前後でつづいている。

地区別でみても、ほぼ全体の傾向と類似している。

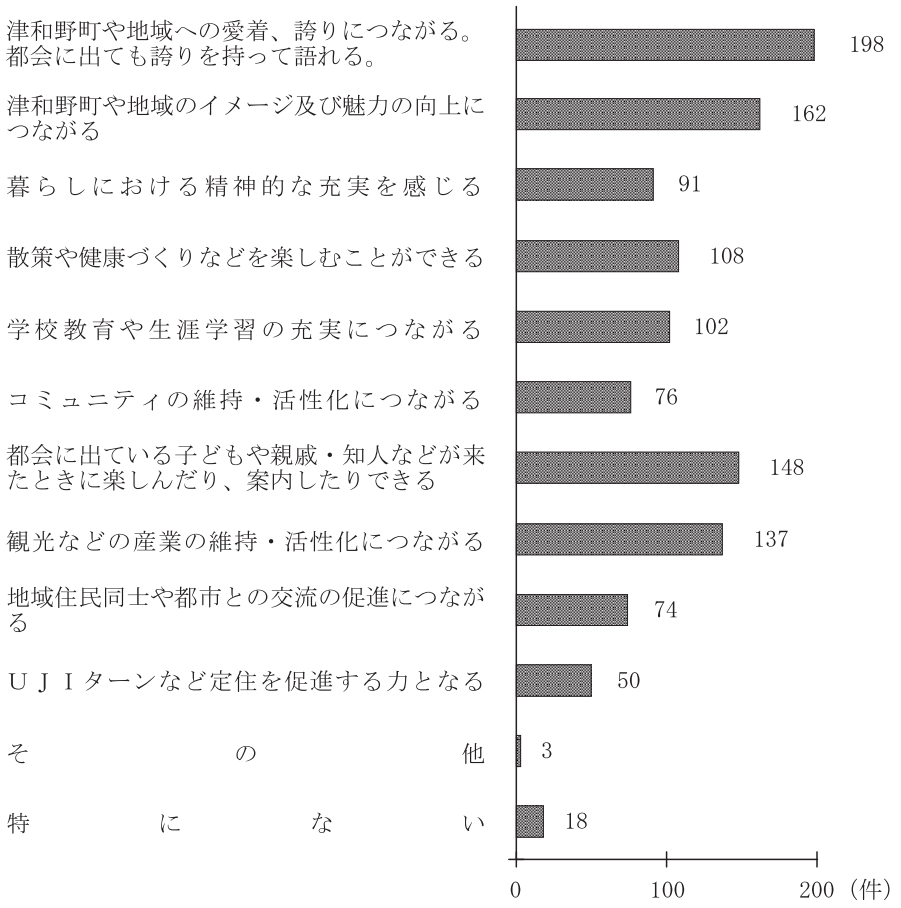

図1-1-11　地域の文化的な資源・宝がもたらす効果や役割（複数回答）

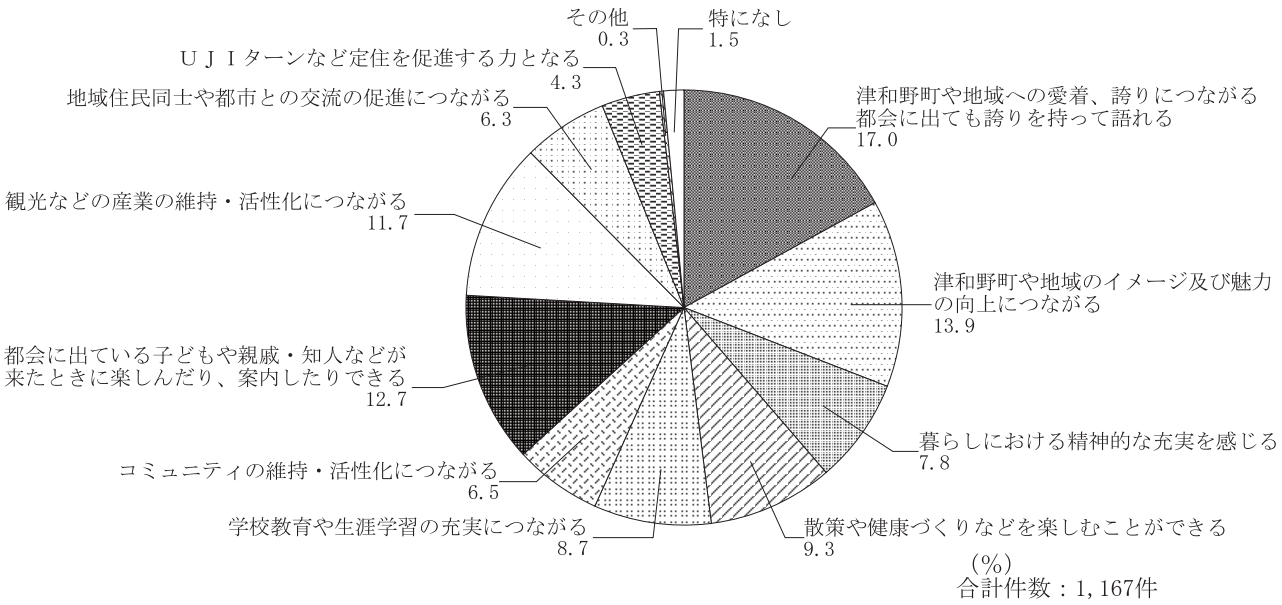

図1-1-12　回答件数の構成比

表1-1-5　地域の文化的な資源・宝がもたらす効果や役割（複数回答）

区分（地区）	合計	津和野町や地域への愛着、誇り	津和野町や地域のイメージ及び魅力の向上	暮らしにおける精神的な充実感	散策や健康づくりなどを楽しむことができる	学校教育や生涯学習の充実につながる	コミュニティの維持・活性化につながる	都会に出ている子どもや親戚などが来たときに楽しめる	観光などの産業の維持・活性化	地域住民同士や都市との交流の促進	ＵＪＩターンなど定住を促進する力	その他	特になし
津和野町全体	1,167	198	162	91	108	102	76	148	137	74	50	3	18
津和野地区	451	82	63	30	45	40	25	63	58	25	13	1	6
小川地区	76	13	15	4	7	7	4	9	11	3	3	－	－
畑迫地区	87	13	15	7	7	4	5	12	14	4	4	1	1
木部地区	93	17	8	9	9	12	5	12	8	8	4	－	1
日原地区	299	45	41	25	27	26	22	32	33	24	17	1	6
須川地区	21	2	2	3	3	2	2	3	2	1	1	－	－
左鎧地区	41	7	5	5	3	4	3	5	2	3	2	－	2
青原地区	98	19	12	8	7	7	10	12	9	6	6	－	2

※数字は件数、全体には「地区不明」（1件）を含む

②　文化財を守り・活かすテーマ

> **問　津和野町は、「山陰の小京都」「日本一の清流」などのイメージがありますが、これ以外に地域の文化的な“資源・宝”を守り、活かしたテーマなどが考えられるでしょうか。お考えがありましたら、３つまであげてください。**

文化財を守り・活かすテーマとしては、197件（テーマ１：107、テーマ２：56、テーマ３：34）の意見が寄せられて、それらを大分類・中分類に整理して、意見（要約）をまとめたものが下表である。

このうち、大分類では「まちづくりの方向性」に関する意見が64件（テーマ１～３、以下同様）、「歴史文化」に関する意見が55件、「自然・緑・生き物・景観」に関する意見が51件と、上位を占めている。

これをさらに分類（中分類）すると、「まちづくりの方向性」における「教育と思想・文化」に関する意見が13件と最も多くなっている。

表1-1-6　文化財を守り・活かすテーマ（１／３）

区　分		テーマ１		テーマ２		テーマ３	
大分類	中分類	内容	件数	内容	件数	内容	件数
まちづくりの方向性	教育と思想・文化	養老館と教育・思想、文化と教育の町：２、教育と思想のまち、教育と人づくりの町、日本の近代を支えた教育と思想のまち：４、新しい教育の町、日本の近代を支えた教育	11	教育の町として中高一貫教育	1	多くの人材生んだ教育の町	1
	ふるさと、田舎	日本（にっぽん）のふるさと、日本の田舎、ここのふる里２、山あいの小さな町	5	田舎の特色を生かし都会の真似をしない	1		
	心、精神	人情の町、ゆたかな心、黙考に浸れる町、旅人を温かく包み込む津和野町	4	ゆたかな思いやり、おもいやり	2	母性を感じさせるやさしい町	1
	歴史・文化・伝統	伝統と新しいものとの同居が大切、歴史文化の宝庫、訪れ町の古都、新しくつくるのではなく今の津和野の宝をどう守って次世代にわたすには	4	歴史と伝統の町、今も歴史が生きてる町、津和野藩からの歴史の重み	3	歴史が蘇える街津和野、地域の文化的な資源・宝を活用し都会との交流事業を促進	2
	小京都	山陰の小京都、小京都の里山	2			霧の中の小京都	1
	反・小京都	「山陰の小京都」から「日本の小京都」へ、小京都ではなく津和野は津和野	2				
	自然、四季	自然豊な町	1	四季を感じる町（盆地の雪景色は秀逸）	1	自然を生かす、山と水と朝霧の中で	2
	天領・鉱山	天領と鉱山と産業文化２、天領の街津和野	3	天領と鉱山と産業文化	1		
	街道・道	西からの山陰一の入口	1	街道文化のまほろば	1	山々につつまれた津和野路	1
	安全・安心、福祉	お年寄りが元気な町～高齢化社会に備えて、明るい町づくり	2	安心できる町	1		
	その他	山陰のイメージチェンジ（山陰を山光としたら山の陰でなくして山の光）、のんびりできる町	2	スローダウンな時の流れと小気味良い風が通る町、シルクの里（織物だけでなく絹を食材やサプリ化粧品などに広く応用させて）	2		
		リメンバーTuwano	1	ここまでが津和野	1		
		汽笛が響くＳＬのまち	1	清き永の町津和野	1		
				信仰の源流、乙女峠	1		
				日本に残しておきたい町	1		
小計：64			39		17		8

表1-1-6　文化財を守り・活かすテーマ（２／３）

区　分		テーマ１		テーマ２		テーマ３	
大分類	中分類	内容	件数	内容	件数	内容	件数
歴史文化	人物	西周・他の文化人、人、出進名士各位、養老館から輩出された偉人と明治維新・政府に貢献した人々の宣伝	4				
		奉仕者の存在	1				
	城跡	津和野城跡	1	三本松城跡	1	下瀬山城跡	1
		中世の津和野（城跡中心）	1	城山、改修できれば城建物	2	城下町	1
	街道・みち	山陰道（徳城往還道を含む）	1			旧街道野坂峠や徳城峠越えをもっと世に出そう	1
		鷲原八幡宮から鷲原1本杉の山道の整備	1				
	街並み・景観	古き街並みの散策	1			津和野らしい街の整備、つわぶきの里、のの飾如き（？）	3
		景観を守れる地域	1	広告看板のない町に	1		
	建造物、庭園、遺跡	堀家の周囲、特に中堀の手入れ	1	役場前石畳	1	建物（酒蔵、寺、民家など古い建物）	1
		鷲原公園流鏑馬馬場	1			養老館といえば観光津和野の宝、ところが南側は空白の一部屋、有効対処を考えては	1
		公園、庭園の町（堀庭園、嘉楽園、鷲原公園、亀井庭園、城跡等をしっかり整備、管理して巡ってもらう）	2				
		石見銀山と笹ヶ谷銅山との関連	1	笹ヶ谷鉱山へ行く道の整備	1		
	神社仏閣			三渡八幡宮	1		
	伝統行事	伝統的な行事、伝統行事、過去の遺産があるからこそできる伝統行事	3	伝統文化と行事、伝統行事（芸能）、伝統行事の脈うつ町	3		
		四季折々の伝統行事、四季の伝統行事	2	四季折々の伝統行事	1	四季折々の伝統行事と生活文化２	2
		四季折々の伝統行事と生活文化２	2	伝統行事由来を再考する	1		
		石見神楽	1	石見神楽	1		
				鷺舞神事の町	1	鷺舞	1
				鷺舞など昔のものばかりに頼らず、古きを生かしながら現代人にアピールするものを作りだすべき	1		
	伝統技術・生活文化・暮らし	素朴な暮らし、里山でつつましくもいきいきとくらす人々	2	伝統技術の発掘（例、つわの言葉の継承学究会）	1		
		貴重な生産技術の継承	1	伝統技術とものづくり（最近希少価値の出ているシルク関連）	1		
小計：55			27		17		11
農林水産業、特産品、食	森林・林業	津和野町内の山に蓄えられた木材資源活用	1				
	農業			中山間地で農法人数が多いのでは	1		
	ワサビ、産地			ワサビ、新しい（珍しい）農産物の産地づくり	1		
	鮎料理	鮎料理の開発	1				
	四季折々の食	四季折々の自然と食文化（自然観察と山菜、アユ、カニ、イノシシ、スッポン等料理）	1				
	酒					地酒と合った食べ物探求	1
小計：6			3		2		1

表1-1-6　文化財を守り・活かすテーマ（３／３）

区　分		テーマ１		テーマ２		テーマ３	
大分類	中分類	内容	件数	内容	件数	内容	件数
自然・緑・生き物・景観	星、星空	星空、星がきれいにみられる、日原天文台の活性化と有効活用、手に届く星空	4	天の川が映える小京都	1	ホタルのとぶ町	1
	ホタルなど	ホタルやモリアオガエル多くいて住んで体験もできる美しい農村風景（畑迫、木部）（地倉、木曽野）	1	ほたる、蛍祭	2	自然と星空を抱ける町	1
	川	清流日本一２、高津川	3	カヌー教室、川下りの立ち上げ	2		
		錦川をきれいにし昔の様に河鹿が鳴き蛍が飛び川蝉がいる様にしたい	1				
	アユなどの魚	あゆ、鮎の日原	2	小さな谷川の遊魚	1	小川から河に接続する部分を小魚がそじょうできる構造に	1
	鳥					ゴイサギ（川魚）	1
	自然景観	四季折々の景観に恵まれた日本の原風景	1			自然の中での自己を見つめる	1
	森林など	大いなる大自然（森林等）	1				
	安蔵寺山	安蔵寺山、安蔵寺山を西日本の山として位置づけ（子供から老人まで楽しむ山である）、安蔵寺山一帯の自然	3			（秀峰青野山、）豪峰安蔵寺山へもっと登る	1
	青野山など	母なる青野、父なる城山（取り巻く兄弟の山）、青野山の昔の姿	3	青野山３	3	秀峰青野山（、豪峰安蔵寺山）へもっと登る	1
	樹木	小野の緑、一本杉、タブの樹、ケヤキ、桜並木、大楠木２、町内１番の桜並木	8				
	植樹	個人1人から始まる桜を1人1本植える活動	1	一日千本（花木等の植樹、1人1本も良し）	1	各集落ごとの取組で行う植樹	1
	その他自然・天然記念物	雲海	1	天然記念物を守れる町、風穴、耕作放棄田に生き物（水性、動植物）が住める湿地に	3	山林や自然を生かした教室や催し等	1
小計：51			29		13		9
その他	歴史や自然探訪・ウォーキングなど	参勤交代を歩く森林渓谷セラピー	1	歴史をたどるウォーキング、史蹟を巡る街津和野	2	小さな谷川への車の乗り入れの観光	1
				手軽な案内書（旧城下町の散策やウオーキングコース）	1	安蔵寺山、青野山、地倉沼等の自然と登山コース	1
				町内めぐりを四季折々にすすめる（一方策として）・主要地の公民館を拠点としてそれぞれが事業計画をたてる	1		
	観光開発	保養地としての開発（別荘、セカンドハウス）	1				
	環境美化・ゴミ	環境の美化運動	1			津和野川河川の雑草の除去、清掃	1
		ゴミ問題	1				
	公園緑地の整備	公園の整備（丸山公園、天神山他）	1				
	農村環境	農村（里）環境保全及び整備	1				
	安全・安心の整備			津和野川に添った風呂屋橋から鷲原橋の遊歩道に街灯、防犯灯（青色灯火）の整備	1		
	その他	津和野本学は実は時代に逆行したことをした	1	山中であり、海にも近い	1	芸術作品にふれる機会がほしい	1
		それ以外に何がありますか？これだけあればすごいです	1	それを大切にして守り続けることが全てです	1	今より少し前の時代を守り続けましょう	1
		やさしい英会話の集い（小地区単位）	1				
小計：21			9		7		5
合計：197			107		56		34

第３節　津和野町の歴史文化の特色と価値

１　津和野町の歴史文化の特色と価値の構成

津和野町の歴史文化の特色と価値を個別的に取り上げ、さらに共通する視点（切り口）で大きく区分すると、以下のように全体的な特色と価値とともに、“野”、“山”、“街”といったキーワードでくくることができる。

また、それぞれの区分は相互に関連・影響し合っていることになる。

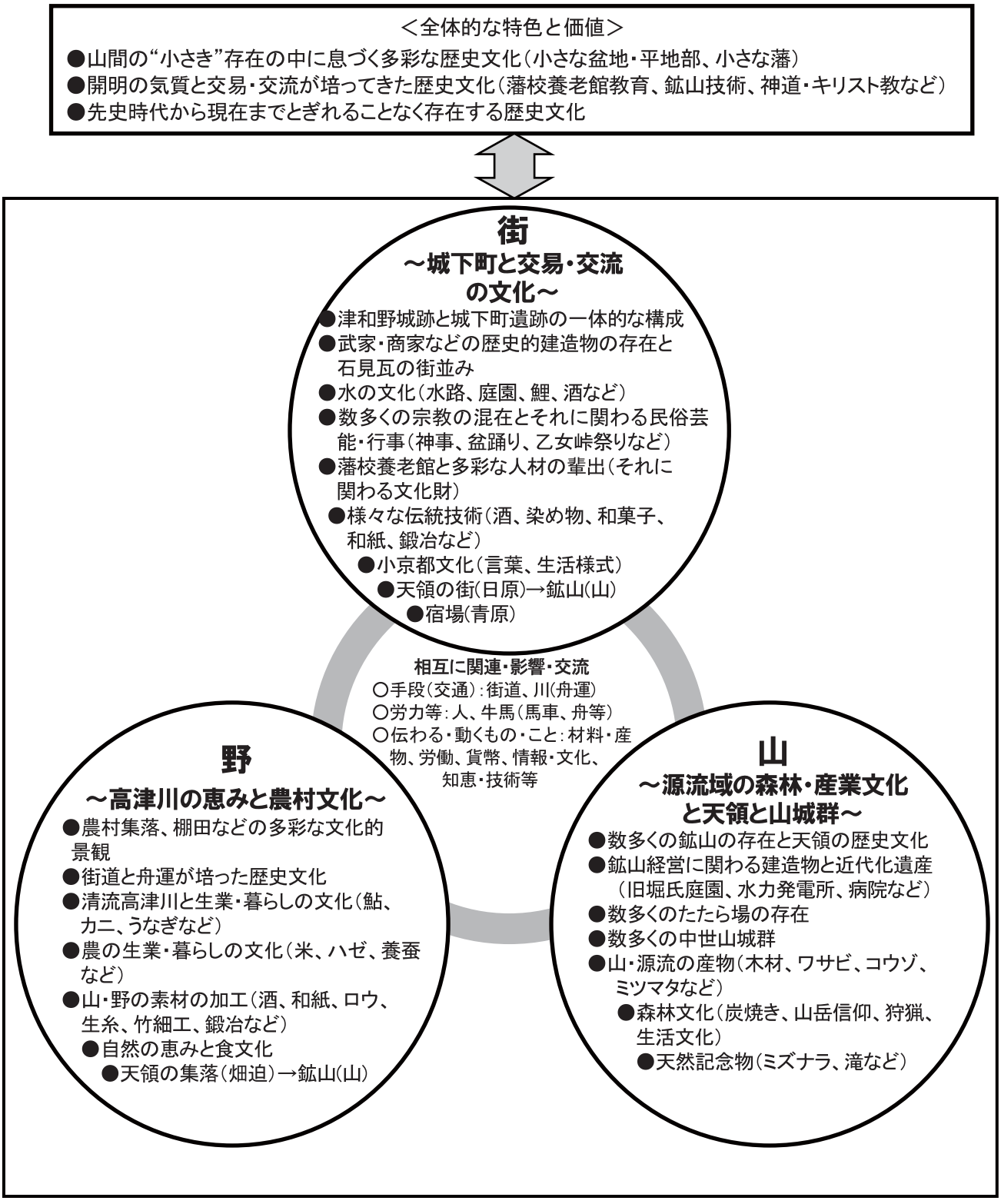

図1-1-13　津和野の歴史文化の特色と価値に関わる主な内容（要点）と構成

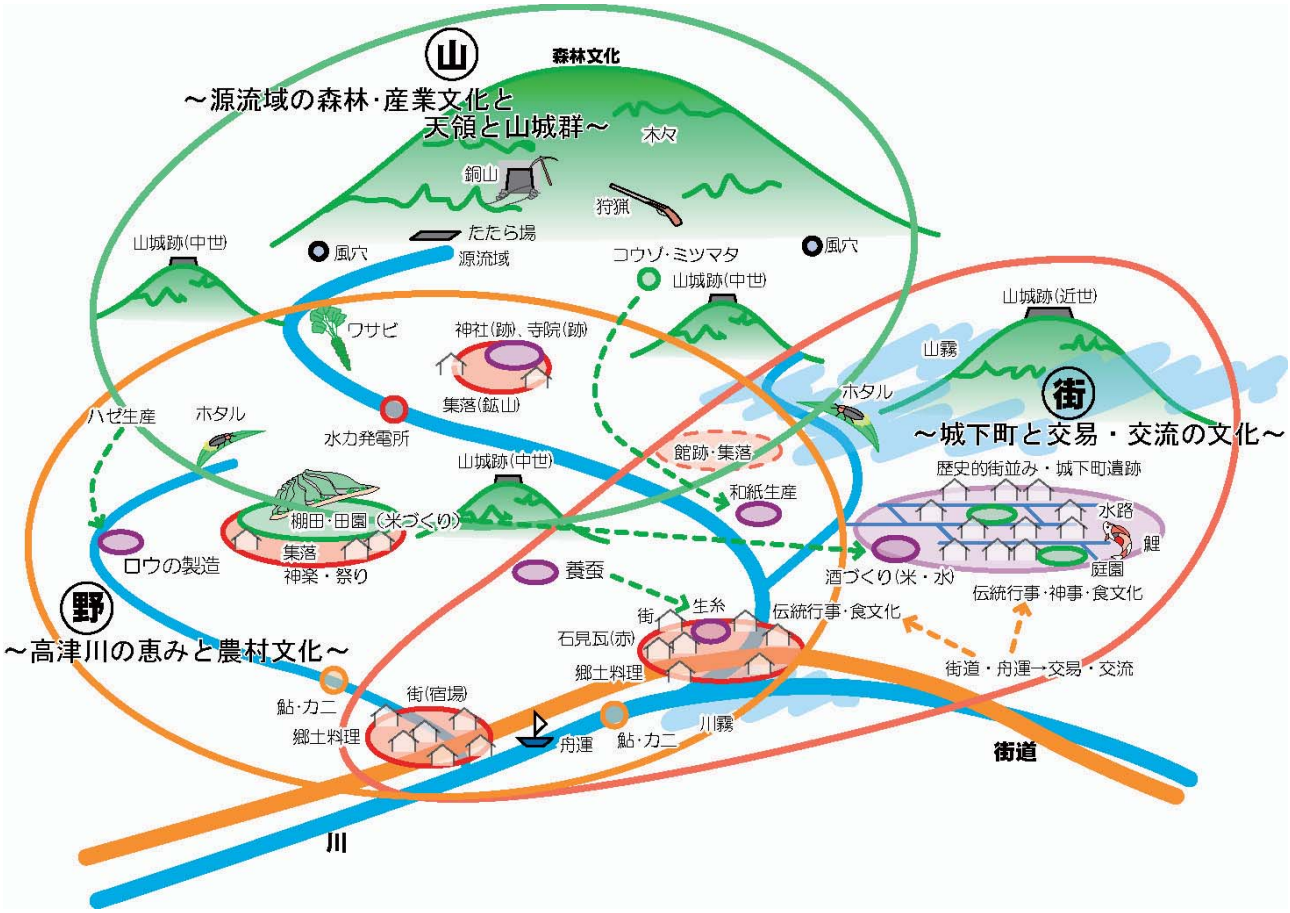

図1-1-14　津和野の歴史文化の特色・価値の構成イメージ～野・山・街～

２　津和野町の歴史文化の特色と価値

（１）　全体的な特色と価値

①　山間の“小さき”存在から生まれた多彩な歴史文化（小さな盆地・平地、小さな藩）

津和野町は、山間の盆地や平地、斜面地に街や集落を築いてきた地域であり、いずれも小規模な空間で、それらが地域の中に点在し、地形的には川がつなぐような構造となっている。

また、近世においては、津和野藩が置かれた地域であり、４万３千石の小藩であった。

このように地形的にも、藩の規模の面でも“小さき”存在であったものの、幕末の激動期における教育改革によって、多分野において数多くの人材を輩出し、とりわけ幕末から明治においては歴史的な使命を担い、その歴史と文化が息づく地域である。

②　開明の気質と交易・交流が培ってきた歴史文化

津和野町は、決して恵まれているとはいえない環境にありながらも、そこに生きる人々は川や森、自然の恵みを利用し、生かしながら、暮らしや地域を築いてきた。

また、山間の厳しい条件を克服するように、街道や舟運を通じて、活発な交易・交流を行い、各地の情報や技術を吸収してきた。こうしたことは、世の中の状況や時代の流れに対する鋭敏さにつながり、教育や個の充実の重要性を認識し、藩校養老館に代表される先駆的な人材育成に取り組み、その風土を引き継いできた。その結果、数々の人材を輩出し、それぞれの時代と次代を築いてきた。

いうならば津和野町は、風土を生かし、克服しながら、開明の気質を持って営んできた歴史と文化が息づく地域である。

③　先史時代から現在までとぎれることなく存在する文化財

津和野町には、縄文・弥生から古代、中世、近世、そして近代・現在に至るまで、各時代の文化財が、数多く存在する。

また、歴史的に培われた農業や林業、伝統産業といった生業、そして食文化や習俗、民俗芸能なども息づいている。

まさに、先史時代から現在まで、文化財がとぎれることなく存在し、現在においても、生活の中に様々な時代の歴史文化が息づいている地域である。

（２）「街」に関わる特色と価値～城下町と交易・交流の文化～

①　津和野城跡と城下町遺跡の一体的な構成

津和野城跡は、全国的にも希有な近世の山城跡であり、山城の居館を構成していた櫓が残っているのは津和野城跡だけである。

また、城下町を構成していた建造物が数多く残り、城跡と旧城下町が一体的に残っている。

②　武家・商家などの歴史的建造物の存在と石見瓦の街並み

旧城下町には、その時代の武家・商家などの建物が残り、また、明治以降の歴史的な建物も多数残っている。

また、建物の大半が石見瓦（赤瓦）を使用しており、街並みの景観を特徴づけている。

③　水の文化

藩校養老館前などには往時の水路が今も残り、鯉が泳ぎ、観光資源にもなっている。その他、現在は、水路の蓋掛けなどで見ることはできないが、地下には水路網の遺構が眠っている。

また、旧城下町の民家（商家など）では、京都の文化を取り入れた庭園が、煎茶文化などとともに暮らしを彩り、水を生かした酒づくりなどの生業も今に引き継がれている。

④　数多くの宗教の混在とそれに関わる民俗芸能・行事

津和野は、小規模な地域であるものの、神道、仏教、キリスト教が根づき、それに関わる神事や盆踊り、乙女峠祭りなど数多くの民俗芸能や行事が行われている。

⑤　藩校養老館と多彩な人材の輩出（それに関わる文化財）

近世においては、津和野藩に養老館が設置され、そこにおける教育により、多くの人材を輩出した歴史がある。

現在も藩校養老館の建物等（県の史跡）や森鷗外旧宅、西周旧居、関係する文書・資料などが残っている。

⑥　様々な伝統産業

津和野には、自然の恵みを生かした酒や和紙づくり、染め物、農耕を支えてきた鍛冶、京都の文化の影響を受けた和菓子づくりなどが継承されてきている。

⑦　小京都文化（言葉、生活様式）

津和野は、歴史的に京都の文化を取り入れた地域であり、言葉や生活様式にその影響がみられる。

生活様式に関しては、前述の庭園や和菓子に加え、煎茶の文化が今も暮らしに息づいている。

⑧　天領の街（日原）

日原は、銅山があることから、江戸幕府の直轄領（天領）となり、また、高津川の舟運や奥筋往還といった交通基盤、養蚕・製糸や精蝋などの産業もあり、発展した歴史を持つ。

現在では、近世の建物はなくなったが、街は引き継がれ、石見瓦の家並みと高津川、そして周囲の緑が景観を特徴づけている。

⑨　宿場（青原）

青原は、山陰道と高津川の舟運の結節点にできた宿場でり、代官所もあった。また、交易・交流の要衝であったことから、現在では、水害による再整備が行われたことや人口減少もあり、宿場の街並みとしては残っていないが、往時と同じ場所に建っている家や青原八幡宮、石造物、そして民俗芸能などを通じて、かつての賑わいや暮らしを知ることができる。

（３）「野」に関わる特色と価値～高津川の恵みと農村文化～

①　農村集落、棚田などの多彩な文化的景観

津和野には、山間の小規模な平地や斜面地を生かした農村集落や棚田が、散在する形で数多く存在する。

これらは、農地や川、周辺の山、森と相まって、それぞれに固有の文化的景観を形づくっている。

②　街道と舟運が培った歴史文化

津和野には、史跡に指定された山陰道（徳城峠越・野坂峠越）があり、さらに、津和野・廿日市街道、奥筋往還などの歴史的な道を確認することができる。また、清流高津川は、支流を含め舟運によって人・物などが行き交い、地域を支え・発展させた歴史を持つ。

このように津和野は、街道と舟運による交易・交流によって、歴史文化が培われてきた地域である。

③　清流高津川と生業・暮らしの文化

清流高津川は、鮎、カニ、ウナギなどの豊かな川の恵みをもたらしてきた川であり、漁労や食文化などをはぐくんできた。

現在でも伝統的な漁やその道具などが残り、鮎釣りは風物詩になっている。

④　農の生業・暮らしの文化

決して恵まれているとはいえない地形条件の中で、自然を生かし培われながら、米づくりが行われ、ハゼ、養蚕などの生業が営まれてきた。

⑤　山・野の素材の加工

津和野には、米、樹木・竹、ハゼ、まゆ、鉄など、山と野の生産物（素材）を生かした酒、和紙、竹細工、ロウ、生糸、鍛冶などの生業が生まれてきた。

⑥　自然の恵みと食文化

津和野は、川や農、山の恵みが地域で生み出され、交易・交流によって海産物や京都の食文化ももたらされた地域である。

また、豊かな森を背景に、鳥獣の肉食文化もはぐくまれてきた。

⑦　天領の集落

畑迫は、山間の山村または農村集落といえるが、近くに笹ヶ谷銅山があったことから江戸幕府の直轄領（天領）となり、発展した歴史を持つ。

銅山師（経営者）であった堀氏は、鉱山だけではなく、畑迫の生活の場の整備も進めた。

※次の「（４）　山に関わる特色と価値」を参照

（4）「山」に関わる特色と価値～源流域の森林・産業文化と天領と山城群～

①　数多くの鉱山の存在と天領の歴史文化

津和野には、笹ヶ谷銅山や日原銅山など、数多くの鉱山があり、地域の歴史文化を培ってきた。

笹ヶ谷銅山については、中世・近世・近代と操業を続け、銅山師（経営者）であった堀氏の庭園などは国の名勝に指定されている

日原銅山については、江戸時代は天領（幕府の直轄領）であり、周囲が津和野藩の中にあって、独自の生活と文化が培われていた。

②　鉱山経営に関わる建造物と近代化遺産

笹ヶ谷銅山は、長い間操業を続けた鉱山であり、多くの人々が働き、地域での暮らしが営まれてきた。銅山師（経営者）であった堀氏は、鉱山だけではなく、生活の場の整備も進め、庭園や関係する建造物、畑迫病院は国の名勝に指定されている。

また、水力発電所の整備も行い、前記の病院とともに近代化遺産と位置づけられる。

③　数多くのたたら場の存在

津和野の豊かな森（特に左鐙地区）は、たたら製鉄の基盤であり、近代製鉄が生まれるまでは、盛んに行われていた。

現在、たたら場跡は、樹木に覆われた状態ではあるが、左鐙地区を中心に数多く存在する。

④　数多くの中世山城群

津和野においては、弘安５年(1282)の吉見氏の入部以降、蒙古の再襲来に備え、築城が始まり、戦国期を含め、多数の山城が築かれた。

なお、津和野城は、吉見氏が築城を始め、その後、近世に入り坂崎氏、亀井氏に引き継がれたものであり、近世山城であると同時に、中世に築かれた部分も存在する。

⑤　山・源流の産物

津和野には、豊かな森があり、源流域が形づくられ、その地域では、木材が生産され、紙の原料であるコウゾ・ミツマタが採れ、ワサビが生産されている。

こうした山や源流の産物は、それ自体や生産過程が文化であると同時に、地域の生活文化と一体に存在する。

⑥　森林文化

山や源流、そこから生まれる産物は、地域の暮らしを支え、生活文化につながっていく。

津和野では、炭焼きや狩猟がわずかながらも引き継がれ、炭焼きの跡も確認できる。また、山岳信仰は暮らしの中に息づいている。

⑦　自然

津和野には、島根県下（県境以外）で最も高い安蔵寺山が位置し、豊かな森や源流域があり、そこには大ミズナラをはじめ大木や滝がみられ、それらは信仰の対象ともなっている。

また、その中には、多種多様な動植物が生息・生育している。

第４節　津和野町の文化財の保存・活用の問題点・留意点

津和野町の文化財の保存・活用に関わる問題点・留意点を検討するにあたって、次の３つ視点（切り口）を設定する。

■文化財の法制度上の位置づけ（指定等の有無）

文化財とは、「指定などの措置がとられているか否かにかかわらず、歴史上または芸術上など価値が高い、あるいは人々の生活の理解のために必要なすべての文化的所産」であるが、法的に指定または登録してある文化財と、そうでない文化財は、通常、保存や周知などにおいて大きな違いがある。

このため、文化財の指定等の有無を切り口に、問題点・留意点を探る。

■文化財の保存・活用の区分

文化財の保存・活用に関しては、その背景となる文化財に対する所有者や住民等の意識・考えに関すること、調査・研究、保存・活用を支える体制・制度、主としてハードに関する整備、維持管理、活用の取組があげられる。

このため、こうした側面における問題点・留意点を探る。

■文化財の保存・活用の担い手

文化財の保存・活用においては、それを誰が担っていくかが大きな課題となる。

現状においては、指定または登録された文化財は、行政及び所有者・管理者が、それぞれ法に基づいて、管理や修理などを担うことになる。

しかし、文化財とは指定等が行われているものだけではなく、「すべての文化的所産」であり、本構想の推進においては、行政及び所有者・管理者だけでなく、広く住民等の協力と参加が重要になる。

このため、文化財の保存・活用の担い手を切り口に、問題点・留意点を探る。

以上の視点（切り口）をもとに、文化財の保存・活用の区分ごとに問題点・留意点を検討すると、次頁の表のようになる。

表1-1-7　津和野町の文化財の保存・活用の問題点・留意点

区分（視点）		文化財の法制度上の位置づけ		
		指定・登録	未指定等	全般
文化財の保存・活用の区分	文化財に対する意識・考え	○住民に対する指定文化財に関する理解と周知の不足 □住民の指定文化財への理解と知識の不足	○未指定文化財の存在や価値への理解の醸成が不十分 ◇未指定文化財の保存・活用に関する行政と所有者・住民等の知識・考え方の共有	◇津和野の文化財の特色や価値の共有 ◇少子高齢化や過疎化等を背景とした文化財の保存・継承への懸念
	調査・研究・計画づくり	○保存管理計画等の策定	◇未指定文化財の再発見・把握・調査・研究（文化財そのもの、所有者など）	○継続的な文化財の調査への対応 ◇文化財に関わる資料・データ等の把握・整理
	保存・活用を支える体制・制度	◇行政と所有者・住民等の連携が不十分（役割が不明確）	◇未指定文化財の保存・継承（活用）への対応 ◇文化財の把握・管理の体制が未整備	○文化財の調査及び保存・活用の体制・制度 ○文化財行政とまちづくり・観光等との連携 ◇行政とボランティアの連携 ◇文化財の保存・活用に関わる担い手・団体の育成 ○文化財の保存・活用への支援 ◇地域ぐるみで取り組む文化財の保存・活用の体制（地域や学校との連携）
	文化財の整備（主としてハード）	○文化財の整備状況及び整備への対応不足	○文化財としての整備への対応不足 ◇行政と所有者・住民との連携不足	○文化財の利用に関わる安全対策やバリアフリー等への対応 ○ガイダンスや展示施設等の整備 ○便益施設（駐車場、トイレ、休憩の場など）の整備 ○サインの整備 ○動線の整備（アクセス、周遊など） ◇文化財の周辺環境の整備
	保護及び維持管理の取組（ソフト）	○文化財の維持管理が不十分（パンフレット作成、草刈などの取組）	□文化財の保存状況（取組） □保管施設が未整備	□所有者としての文化財の保護への対応 ◇文化財のパトロールや点検など維持管理の取組 ◇鳥獣被害などからの文化財の保護 ◇文化財の防災・盗難対策への対応
	活用の取組（ソフト）	○文化財の公開の状況 ○文化財や文化施設の利用料金の状況・評価 ○情報発信不足 ○展示・公開施設の未連携	◇文化財の活用不足 ○情報発信不足 ○展示・公開施設の未連携	○文化財に関する学習・体験機会の確保 □文化財の公開・開放への対応 ◇文化財に関わる資料等の活用及び情報提供・発信 ◇文化財を生かしたまちづくりや観光振興への取組 （◇行政とボランティアの連携）
	その他	○関係部局との連携不足		◇文化財等を意識した景観の保全・形成（周辺環境を含めた文化財の保存・活用） ◇つながりや周辺環境を含めた文化財の保存・活用への対応 ◇文化財の維持管理・活用に関わる資金（浄財）の確保

担い手：○（主として）行政に関わること　　□（主として）住民等に関わること　　◇行政と住民等に関わること

第５節　津和野町の文化財の保存・活用の課題

津和野町の文化財やそれを取り巻く環境の特性や問題点などを踏まえ、文化財の保存・活用に関する課題を検討すると、大きくは次の７つの課題が設定できる。

＜津和野町の文化財の保存・活用の課題＞

- 「住民等の文化財に対する意識・理解の醸成」に取り組むことが必要
- 「地域の文化財の再発見・再認識と保存」に取り組むことが必要
- 「つながりを持った文化財の保存・活用」に取り組むことが必要
- 「周辺環境を含めた文化財の保存・活用」に取り組むことが必要
- 「地域ぐるみで文化財の保存・活用」に取り組むことが必要
- 「文化財の価値・特色の共有・顕在化と津和野の魅力づくり」に取り組むことが必要
- 「文化財を生かしたまちづくりや観光振興」に取り組むことが必要

１「住民等の文化財に対する意識・理解の醸成」に取り組むことが必要

文化財の保存・活用には、住民や関係権利者、さらには津和野町を訪れた人々などの理解と協力が大切であり、また、維持管理などの担い手として住民等の力が期待される。

このため、基礎的な取組として、住民等の文化財に対する意識・理解の醸成に取り組む必要がある。

２「地域の文化財の再発見・再認識と保存」に取り組むことが必要

津和野町には、確認しているが指定や登録を行っていない文化財が数多くあり、さらには埋もれて気づかないものも存在すると考えられる。

このため、地域を最もよく知る住民の参加によって、地域の文化財の再発見・再認識と保存（下記「地域ぐるみで文化財の保存・活用」）を進めるとともに、合併を踏まえ、全町的な指針・基準等を設け、文化財の指定・登録にも取り組むことが必要である。

３「つながりを持った文化財の保存・活用」に取り組むことが必要

津和野町には、山城跡や鉱山跡、民俗芸能が多数存在し、幾筋もの街道があるなど、つながりや共有性を持つ文化財がある。

これらは、それぞれにおいて特色や価値・魅力を持つと同時に、つないで保存・活用することによって、“群”としての特色や価値・魅力を備えることになる。

このため、関連する文化財を共通するテーマ等でつなぎ、特色や価値・魅力を引き出す取組が必要である。

４「周辺環境を含めた文化財の保存・活用」に取り組むことが必要

文化財は、それ自体に特色や価値・魅力があるが、それが存在する周辺の環境によって、その存在などが弱められたり、保存・活用がしにくかったりすることがある。

このため、文化財の価値の及ぶ範囲などにおいては、可能な限り文化財と周辺環境を一体的に捉え、保存・活用に取り組む必要がある。

5「地域ぐるみで文化財の保存・活用」に取り組むことが必要

過疎化、少子高齢化が進んでおり、地域の文化財の保護が難しくなりつつある中において、文化財の保存・活用には、行政や関係権利者だけでなく、住民等の理解と協力、そして幅広い参加が不可欠である。とりわけ日常的な管理やモニタリングは、地域住民の参加を前提とすることになる。また、文化財の継続的な調査も、専門家に加え、住民等の参加が期待される。

このため、広域的な支援を含め、地域ぐるみで文化財の保存・活用を進める体制づくりや人材の確保・育成などに取り組む必要がある。

6「文化財の価値・特色の共有・顕在化と津和野の魅力づくり」に取り組むことが必要

地域ぐるみで文化財の保存・活用を進めるためには、文化財やその保存・活用の意義や効果などを共通認識することが大切であり、さらに、共通する価値などに基づき、津和野の魅力づくりやイメージアップに取り組むことが期待される。

このため、共有でき、かつ、住民等に浸透する文化財の価値・特色を見いだし、その共有化・顕在化を図るとともに、広く情報発信していくことが必要である。

7「文化財を生かしたまちづくりや観光振興」に取り組むことが必要

文化財の保存・活用を、広がりを持って進めるためには、まちづくりとの連携が大切であり、とりわけ津和野町においては、観光振興と文化財の保存・活用は表裏一体の関係ともいえる。

このため、文化財保護行政と生涯学習、観光振興、都市計画、建設部門などの連携を図りながら、歴史文化を生かしたまちづくりを進める必要がある。